

桜井市ボランティア連絡協議会主催  
ボランティアスクール「大規模震災発生に備える講座」（令和7年2月9日）  
アンケートにおける質問に対する講師からの回答

第1部 『近い将来起こる可能性のある震災に対する対策と現状』

講師：桜井市危機管理課 西村 陸 氏

（質問1）福祉避難所に何名対応出来る状況ですか。（最大予定数の説明がなかったので）

（回答）最大受入可能人数は568名となっておりますが、施設の状況や対応できる職員の有無などにより、受入可能人数は大きく変動する可能性があります。

（質問2）避難場所での食品類の備蓄日数はどの程度ですか。

（回答）災害発生時の県外などから支援が入るまでを3日と想定し、その期間を各家庭での備蓄、流通備蓄、市の備蓄でまかなうと考えております。そして、市の備蓄では、想定最大避難者の3食分（1日分）を目標に備蓄を進めております。

（質問3）基本は各家庭で備蓄すると思っておりますが、市での食糧・水などのローリングストックはどうなっているのかな？と思います。

（回答）市でも賞味期限切れを迎える食糧・水等については、随時更新を行っております。その食糧は防災訓練等の参加者に防災啓発の一環で配布をするなどしています。

（質問4）桜井市としては避難所の冷暖房・トイレの充足の準備はどうなっているのか。

（回答）避難所の空調設備の設置については、令和7年度に市内4中学校の体育館への整備に係る設計費等を計上しています。小学校についても、出来る限り早期設置に向け取り組んで参ります。

トイレについては、簡易トイレや携帯トイレなどの整備を進めております。

(質問5) トイレカー等の準備はどのようになっているのか。他の所で準備されている。桜井市はどうか。

(回答) 令和7年度に国の交付金を活用し、小型のトイレカー2台を整備予定です。

## 第2部 『【能登半島地震】から学んだ被災者支援』

講師：奈良県社会福祉協議会 総合ボランティアセンター 田中和博さん

(質問1) 被災者心理には保安上の気持ちがあると思う。インタビューでも一軒家、一戸建て家はよく被害状況が出るので、よくわかるが、集合住宅、マンション、アパート等の様な建物の被害についての情報はなかったのか？

(回答) 過去の災害において、集合住宅・アパート等へのボランティア活動はあったり、罹災証明などの対応はされていると聞いています。被災地の地域性にもよると思いますが、一軒家が多い地域であればもちろん、一軒家への対応が多くなるかと思います。

(質問2) 実際に何か起きた時に桜井市や近所がどうなるのか。どうボランティアが来て、どう役立つのか？

(回答) 被害の規模感によりますが、災害ボランティアセンターを通じてボランティアが来ることになったり、テレビ報道や行政・社協関係者から話を聞いた災害支援団体さんがボランティアとして支援に入るなどの可能性があるかと思います。

災害ボランティアセンターを通じてのボランティアを派遣する際には、エリアマッチングなどの対応になる可能性もあるかと思います。地域の自治会と社協が連携を取って、例えば、30名 本日ボランティアが来るので、地域の困りごと（住民さん）とボランティアを自治会でマッチングしてもらうなどの対応などがあつたります。

ボランティアがどう役立つかについては、地域住民さんが使う私道や自宅敷地内は、行政は関与できないとのことで、そこで自助だけでは片付かないこともあり、行政や被災者だけで対応できない支援のめれ・むらを、ボランティアが対応するようなイメージになります。

災害ボランティアセンターを知らない方が数多く出てくるので、平常時から発災時には社協が災害ボランティアセンターを運営しているらしいと伝えてもらえると地域の早い生活復旧が進むかと思います。